



2022(令和4)年7月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15
TEL/06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください



<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

摂食嚥下センターを開設



多職種チームで誤嚥防ぐ

口の中の食物が飲み込みにくくなる嚥下障害は、だれにでも起こり得る症状です。健康な人も年齢を重ねるに従って嚥下機能が低下するリスクは高まり、高齢者の肺炎はかなりの割合で誤嚥が引き金となっており、誤嚥が頻りに起こると、多職種が集まる診療チームで対応する「摂食嚥下センター」を開設しました。入院中の全診療科の患者さんを対象に嚥下障害による合併症を起さないよう食事指導やケアを進めるほか、症状が疑われる患者さんには専門医が手術や治療にあたり、リハビリテーション立案や機能訓練を展開いたします。

嚥下機能を維持するための3つのポイント

- 1** 大切なのは噛む力。口の中をきれいにし、歯を大切に、よく噛んで食べる。
 - 2** 適度な運動を心がける。体の筋力が低下してくると嚥下機能にも悪影響。
 - 3** 誤嚥対策として咳で吐き出す息の力を鍛える。楽しんで声を発する。楽しんで遊ぶ。
- 誤嚥の徴候**
- ・食事中や食後に咳がでる
 - ・液体でむせる
 - ・食後に痰が増える
 - ・錠剤が飲みにくい
 - ・食後に声がかがらなくなる
- 誤嚥を防ぐコツ**
- ・水で口の中を湿らせる
 - ・一口量を少なめに
 - ・上を向いて飲まない
 - ・息を止めて飲み込む
 - ・早食いは厳禁
 - ・食事の時はしゃべらない
 - ・TVをみない

新 診療科長ごあいさつ

● 感染症内科長 忽那 賢志

この度7月1日に開設された感染症内科の診療科長を拝命しました。まずは今月より外来診療を開始し、他院から紹介のあった患者さんや、本院の他の診療科のかかりつけ患者さんから感染症に関するご相談をお受けしています。また、感染症だけでなく、発熱原因の分からない、いわゆる不明熱と呼ばれる状態の患者さんの診療も行います。新型コロナウイルス感染症の流行以降、医療における感染症対応の重要性は日々増えています。また耐性菌の増加は「ゆっくりと進むパンデミック(slow pandemic)」と呼ばれる脅威の一つです。当科は感染制御部とも連携し、本院における感染症診療・抗菌薬適正使用に貢献したいと考えております。

(令和4年7月1日就任)

診療件数2年間で倍増

本院はさまざまな診療科で最先端の治療を受ける患者さんがたくさんおられ、特に高齢の場合は治療経過中に嚥下機能の低下が問題になることが少なくありません。本院での摂食嚥下障害の診療件数も右肩上がりに増加しています。2020年の第1四半期には47件でしたが、直近の22年第2四半期は倍以上の100件を超える見込みで、治療とケアの需要がさらに高まっています。センターは幅広い患者さんの嚥下障害を予防するため、どの筋力トレーニングや口腔ケアを重視し、日ごろからの注意を広く呼びかけています。個人差はあるものの、年齢とともにのどにある喉頭の位置がだんだん下がることが避けられません。一般的に男性は喉頭が大きく重いいため、喉頭下垂による嚥下障害を起すリスクも大きくなります。新設されたばかりでまだ発達途上ですが、患者さんの日常生活の質を向上させる役に立てるよう努力してまいります。

転院先との連携にも努める

このほか、患者さんの転院の際には入院中の嚥下機能の低下について詳しく転院先に引き継ぎ、連携にも努めます。機能改善手術や誤嚥防止手術をした際も、連携した療養型病院やリハビリ病院に出向き嚥下評価を行って、転院後も適切なリハビリを受けられるよう支えます。

に詰まりやすい食物は避ける事が大切です。また、カラオケやコーラスなどで歌ったり、日常生活ではっきり大きな声を出しての会話を励行したりするなど、喉の奥から口全体を動かす筋肉の運動の機会を増やすことも効果的です。

新型コロナウイルス感染症対策について

本院では、令和4年6月より全国の大学病院に先駆けて入院患者さんご家族の面会の条件を緩和しました。これまではPCR検査陰性証明書(面会日を含め3日以内の検査結果)を持参いただいた方のみご面会いただいていたのですが、新型コロナウイルス感染症の流行状況が落ち着いてきたことから、PCR検査については不要としました。また新型コロナウイルスワクチンについては、今も感染対策として重要なことには変わりはありませんが、オミクロン株に対する重症化予防効果が十分ではないことから、ワクチン接種については引き続き条件にしております。しかし、現時点でも一度の面会はお一人まで、場所はデイルームで、時間も30分とさせていただきます。また病院内に入る際にはアルコールでの手指消毒とマスクの着用をお願いします。

少しずつ皆さんがご面会しやすいように条件を緩和していければと思っておりますので、引き続き感染対策にご協力よろしくお願いいたします。

(7月初旬時点)

岩崎看護部長おすすめ 初夏の和風御膳

6月28日に岩崎看護部長おすすめ御膳を提供しました。初夏の和風御膳と題し、鶏や夏野菜の天ぷら、冷製の冬瓜料理、デザートには抹茶プリン(特別治療食)・レモンスカッシュゼリー(一般治療食)をご用意しました。患者さんから「初夏らしく、大変美味しかったです。食事に添えられたカードに書かれた看護部長からの優しいお言葉も嬉しかったです。」「治療で食欲不振になりがちですが、今日は完食しました。このような心遣いに明日も頑張る勇気をいただきました。」など、たくさんのご感想をいただきました。入院中の食事が患者さんの楽しみとなり、そして治療の一環としての役割を果たすべく今後も努力してまいります。

患者さんたちから届いたメッセージの一部

メニュー(一例)

- ・おすすめ天ぷら盛り合わせ
- ・冬瓜の蟹風味あんかけ
- ・赤出し
- ・枝豆ごはん
- ・抹茶プリン

患者用立体駐車場 エレベーター設置工事について

令和3年4月から運用されている新患者用立体駐車場ですが、正面玄関まで遠く、エレベーターが設置されていないため、ご利用の方には大変なご不便をおかけしております。本年4月25日より仮設歩道が完成し、現在、エレベーター設置工事を進めており来月中旬に利用開始予定です。統合診療棟新設工事期間中、駐車場に於いて様々なご不便とご迷惑をおかけいたします。学内で認められた病院用駐車スペースには限りがあり、なるべく公共交通機関のご利用をお願いいたします。

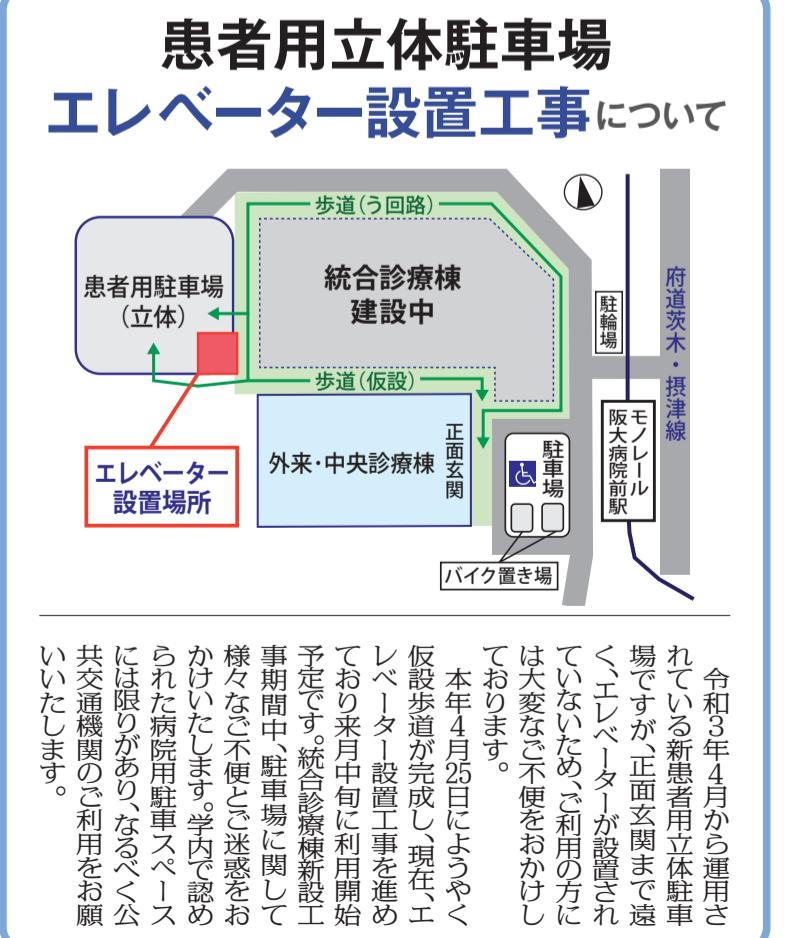


PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

「お花見会」を開催!



小児科病棟に入院中の子どもたちに満開の桜を見て春の訪れを感じてもらいたいと、ご家族・医師・看護師などあわせて約30名で本学キャンパス内医学部共通棟前に咲く満開の桜の下でお花見をしました。

「第20回阪大病院がんサロン」を開催しました。



お口の健康とがん治療のかかりについて

6月にお口の健康とがん治療のかかりについて、本院歯科治療室の内橋先生による講演会を行いました。

特定行為研修3期生の研修が始まりました



本院では、医師が担う医療行為を看護師が行うための「看護師特定行為研修」を開講しています。

子どもの日にミニカーのプレゼント!



小児医療センターに入院中の子どもたちとその兄弟姉妹に笑顔を届けるため、高度救命救急センターから本院ドクターカーのミニカーをプレゼントしました。



整形外科

手術に予防、再生と多岐にわたる役割

9つのグループで診療

近年超高齢化が進む本邦においては平均寿命と健康寿命の間に約10年の隔たりがある...

社会に貢献し、世界をリードする医療従事者の育成



卒後教育開発センターの業務

Table with 4 columns: 初期臨床研修, 後期(専門)研修, 生涯教育, 多職種教育. It lists various training programs and management activities.

卒後教育開発センター 病院で働く医師、看護師といった医療従事者は毎日の診療業務に加え、より良い医療を届けるべく日々勉強や研鑽に努めています。

門へと発展してきています。当センターでは、内科、外科、総合診療といった医療的専門分野を持つ5名の教員(医師)と多くの事務職員が協働して様々な業務を行っています。

ど、研修に関わる様々なマネジメントを行っています。医師後期専門研修においては全診療科の専門研修プログラムの包括的管理を担い、新しく始まった専門医制度の対応もしています。

動画で

病院見学会



臨床検査部編

新型コロナウイルス感染症対策のため、3年連続で市民見学会の開催を見送ることになりました。そこで、見学会に代わる新企画として昨年から始まった「動画で病院見学会」を引き続き、順次公開しています。



阪大病院医学研究奨学金へのご寄附のお願い

本院では医学教育、学術研究や教育・研修の充実、及び病院運営に対し、企業や個人の皆様から広く寄附金を受け入れ、その成果を通じて地域連携支援や社会貢献に役立てています。

大阪大学医学部附属病院教育研究支援課総括係 https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/contribution/

阪大病院医学研究奨学金についてのお問い合わせ e-mail ibyou-sien-soukatu@office.osaka-u.ac.jp



アンケートにご協力ください

本院広報誌「阪大病院ニュース」は、平成13年1月の創刊から4回の発行を続け22年目となりました。

これからもより一層内容を充実させ、良い紙面を作っていくためにアンケートを実施させていただきます。

(回答締切: 令和4年8月31日)

こちらのQRコードよりご協力をお願いします。

